

農事組合法人 ^{つみき} 土実樹【南伊勢町】

- 多様な加工品の開発と異業種交流による販路拡大で、柑橘生産を維持する収益を確保！
- 直払の共同活動により地域内の信頼関係を構築、法人への園地集積により園地の荒廃を抑制！

取組地域の概要

三重県の南東部、志摩半島の南部に位置する南伊勢町は、熊野灘に面してリアス式の海岸を有し、町域の6割が伊勢志摩国立公園に指定されている。気候は、熊野灘の黒潮の影響を受け年中温暖である。その気候を活かして南向きの斜面を中心に、柑橘や小梅の生産が盛んで、これらは地域を代表するブランドとなっている。



直売所では、旬のみかんや、みかんを使った加工品などを販売

取組の背景

年々農業者の高齢化や獣害により柑橘生産が先細りになる中、雇用を含めた就農者の確保と集落の農地保全をめざし、平成12年に農家6戸で組合が設立された。

取組のポイント

ポイント1 6次産業化による収益確保

- ・ 生産物を原料としたジュース、アイスクリームなどの加工に力を入れ、スーパーマーケット、ホテル、列車車内販売など販路を拡大している。
- ・ 直売所を持ち、生産物や加工品を販売するとともに、飲食スペースを併設しソフトクリームや生搾りジュースを販売、人気商品となっている。



みかんジュースとソフトクリーム

ポイント2 直払の共同取組活動により地域との信頼関係を構築し、園地を集積

- ・ 集落の農地を維持していくため、地域内のコミュニケーションを密にし、中山間地域等直接支払制度の活用により、農地の整備や草刈り作業に共同で取り組んでいる。その結果、地域内の信頼関係が構築され、園地の引き継ぎが円滑に進んだ。

ポイント3 地域の柑橘生産を次世代に継承するため、新規就農者の受入体制を整備

- ・ 南伊勢町の果樹生産者で構成する「南勢産地協議会」に参画している。協議会として担い手対策を目的に「みかんの学校」を運営、定年帰農者や新規就農希望者等に対する基礎技術習得支援に積極的に取り組んでいる。
- ・ 新規就農者の技術習得や地域への溶け込みをサポートする「みえの就農サポートリーダー」として登録され、研修生の受け入れに尽力している。

今後の展望

柑橘産地の継続・発展、および新規作目を核とした新たな経営スタイルの確立をめざす。

◆本事例に関する問い合わせ先◆

三重県伊勢農林水産事務所農政室地域農政課
電話 0596-27-5164